

リーダーシップ開発プログラム テーマ活動紹介

キャリアデザインセンターで開講しているリーダーシップ開発プログラムは、学生の「リーダーシップ能力」の体得を目的としている。第7期となる今年度は6学部の1、2年次21人が受講。企業や自治体などと協力してテ

マ活動を学外で行い、「他者と協働していく能力=リーダーシップ」について学んでいる。テーマ活動のうち、2チームの活躍について紹介する。



県議からの質問に答える藤田さん、近田さん、小林さん(右から)

テーマ活動の一つ「島根県の地域づくり コミュニティービジネスの企画」では、地方と関わるさまざまな活動を通じて地域課題の解決や地域資源の可能性について考える。首都圏在住で島根県の関係人口に関心を持つ人を対象に毎月実施している「しまコトアカデミー」の運営や、島根県でのインターンシップに参加してきた。

11月5日には島根県議会総務委員会に所属する県議が本学生田キャンパスを訪れ、教職員や学生

から聞き取り調査を行った。訪れたのは県議や県庁職員ら14人。リーダーシップ開発プログラムに関わる福原康司経営学部准教授がプログラムの概要を説明した後、藤田愛さん(経営1)、近田春さん(商1)、小林永和さん(ネット情報1)が活動について報告した。

2カ月間、県内でインターンシップを行った近田さんは現地に空き家を借りて生活。「近所の人

に食事をごちそうになるなど温かく迎えてもらっ

た。人となることが大切だと学んだ」と語った。来春、再び島根県でのインターンシップを予定している藤田さんは「どのような形になっても、今後島根と関わりたい」と笑顔を見せた。「しまコトアカデミー」の展望について県議から質問を受けた小林さんは「インスタグラムへの投稿や、活動を紹介するペーパーで情報発信し、首都圏の若者が地域について考えるきっかけにしたい」と答えた。

千石義洗さん(商1)は「メンバーがまとまるまでは大変だった。得意なことや、性格などが全員ばらばらで、話し合いを重ねた。この活動を通して、一人一人の個性、強みを生かし、支え合えるチームが良い集団だと考えるようになった。自分と異なる人を受け入れる姿勢を持ち続けることが真のリーダーシップだと知った」と話していた。

参加した学生は、まず新聞紙やチラシを容器の形に折り、ラップやポリ袋をかぶせて即席の容器を作った。そこに防災食を盛り、試食。参加者はその簡単さに驚いた様子だった。

このほかに、新聞紙スリッパ作り、簡易トイレ展示など非常時に役立つノウハウを紹介。川崎市フードバンクのスタッフも企画に参加し、行き交う学生たちに備えることの大切さを広く呼び掛けている。

STORYチーム ハーバリウムを制作 ワークショップ開催



「ビーズも入れると華やかになりますよ」。参加者に積極的に声をかける5人のメンバーたち。STORYチームはワークショップ「ハーバリウム制作」を11月23日、JR川崎駅前の大型商業施設で開いた。受け入れ先は体験型イベントなどを販売している会社「STORY&Co.」(東京都千代田区)。

ハーバリウムは、ガラス瓶に花など植物をオイル漬けしたもの。イベントは午前と午後の2回行われ、計20人が参加した。メンバーは小瓶の中

制作を手伝うメンバーにドライフラワーなどをピンセットで入れる際のポイントを説明したり、実際に手伝ったりした。同社でのテーマ活動では、自分が持つ体験や物語を販売できるマーケットプレイスを通じてワークショップを実施。実社

でゼロから価値を創造することを目指す。ワークショップの狙いについて、矢口優衣さん(経営1)は「普段、両親に感謝の言葉を伝えていない。勤労感謝の日に素直にありがとうという思いを伝えるものをみんなで作りたかった」と話す。ハーバリウムは生花と違い保存期間が長く水やりも必要ないので、プレゼントにぴったりだという。全員で作品を披露した後は「誰へどんな思いを込めたのか」「イメージしたものか」と出題し合い、終始和やかな雰囲気だった。

完成したハーバリウム

「ハラスメント」を知ろう
関連書籍やDVD展示
生田・図書館本館で企画展

生田キャンパスの図書館本館で企画展「これってコミュニケーション? それともハラスメント?」が12月13日まで開催された。個人の尊厳を傷つけ権利を侵害するキャンパス・ハラスメントについて理解を深めることで未然に防ごうと、本学

キャンパス・ハラスメント対策室と図書館の共催で初めて実施した。キャンパス・ハラスメントには、勉学・教育・研究に関するアカデミ

おのが心の拠り所

災害時の備え再確認 防災食や紙食器紹介



防災食を紹介するSIVの学生たち

災害時の備えの大切さを共有しようと、11月21日、生田キャンパスで専修大学ボランティア推進委員会による「防災食フェア」が開催された。同委員会傘下団体SIV(専修生田ボランティア)の学生が中心となり、火を通さなくても作れる防災食や、身の回りの品で手軽に作れる防災グッズを紹介した。

昼休み、「防災食を試食してみませんか?」とSIVの学生たちが防災食を手に行き交う学生たちに声をかける。水を注いで作る五目ごはんや、缶パンなどを紹介した。

当日はキャンパスで防災訓練が実施され、学生たちは「いざというときの心構え」を新たにしていた。

ハラスメントに関する書籍やDVDを集めた企画展



ック・ハラスメント(アカハラ)、性的な言動によるセクシュアル・ハラスメント(セクハラ)、優位的地位にある者による不適切な言動であるパワー・ハラスメント(パワハラ)などがある。企画展では小説やノンフィクションなどの書籍や、映画のDVDなど約40点を展示。ハラスメントの種類に分けて紹介文を掲示した。ハラスメントとは何なのか、その実例を紹介したり、解決策を提示したりする本を、学生や教職員が手に取っていた。

また、本紙に隔月で連載しているコラム「ハラスメントのないキャンパスへ」のパネル展示もあった。